

# 知財パラダイムシフト 43号

## ～知財インテリジェンス(現代人の基本教養)～

公益社団法人 知財経営協会(SIR)会長(兼)理事長 玉井 誠一郎

『**憂患に生き安楽に死す**』とは、革命思想家といわれる孟子の言葉です。困難や不足(ハングリー)は人間を強くし、発明を促し、腹八分目が健康長寿にも最良のようです。ばらまきや過度な保護は他力本願を増長し、ひいては国家衰退をもたらします。他方で排他独占もまた繁栄を阻害する制度の一つに観えます。

本稿では、公益認定11年目にあたり SIR 理念を発展させる仕組みとして、世界中の見えざる資産である**無形資産を知財登録活用する世界無形資産銀行(WIB:World Intangible Bank)構想**について述べます。

### ◎日本の最大課題

現代は知識情報が価値を持つ『知識経済社会』です。この意味は、図1に示すように知的資本(=無形資産)としての見えざる資産(Intangible Asset)の企業価値に占める比率が有形資本(資産)を大きく上回り、この SB 表を氷山に例えれば、海面から出て見えている見える部分が1割、海面下にある見えない部分が9割という、まさしくこの見えざる資産(その本質は情報)こそが企業価値の大半を占めることを意味します。

また一方で、2022年に ChatGPT がリリースされて以来、生成 AI の爆発的投資進化によって、2030年代には汎用 AI が出現し、ホワイトカラーの仕事が AI にとってかわられ、40年代には更にブルーカラーの仕事もロボットに奪われ、資本主義が変容し終焉することも予想されています。

このような時代にあって**日本の最大課題は、①少子高齢化(構造課題)と②生産性(ビジネス課題)です。**

①は、先進国共通課題ですが、少子化対策助成金の効果がないことはすでに世界的に研究済みです。

②の生産性は、労働生産性で日本は2023年 OECD38加盟中30位の時間当たり56.8ドル G7中最下位で米国の半分という状況です。(※労働生産性=付加価値(売価-外部支払等費用)÷労働時間)

以前の論文でも述べたように、日本企業の PBR は世界平均の半分程度と低いことなどから問題の本質は見えざる資産である無形資産が価値として評価されていないことが大きく、打開策は、この無形資産保護(知財化)とライセンス等による収益化が重要であると考えます。

### ◎企業における知財とは

大企業を含めて大半の企業は、知財認識に問題があります。社外秘情報を含め事業や商品に係るすべての情報は企業価値を形成する重要情報であって、これらは無形資産に該当します。特許や商標だけが知財ではなく、この企業固有の情報(無形資産)を法的保護が受けられるように知財化することが極めて重要です。

図2は、これを示したもので、特許等の出願知財だけでは、品質の高い商品は作れず、仕入先情報、製造情報、金型情報、検査情報、顧客情報のみならず、事業戦略や計画情報、人材情報、研究開発及び設計情報等の一切の情報を保護すること、更にこれを収益化する活用が強く求められます。

**知財は活用(マネタイズ)できて初めて財産となり、それまでは負債です。**知財戦略で著名な IBM は、特許を世界標準化するために使い(きわめて安価又は無償ライセンス料で特許情報を普及させ)、事業周辺情報(事業化に欠かせない守秘情報)をライセンスしてマネタイズする戦略をとっています。

社内では、何でもない情報も社外では重要な価値を持つことを良く認識し、バランスの取れた知財のトータルマネジメントが必要です。

### ◎大学知財の課題

日本の大学知財に関する課題は、①旧態依然のラボノート、②旧態依然の大学知の商用化にあります。

①は、研究情報が文書図表だけではなく、写真、音声、動画等のマルチメディアになりコンピューター入力する時代になっているのに紙媒体のラボノートでこれを記録管理できるはずもなく、早急に『**電子ラボノート**』に移行すべきです。

②の根本的解決は、**TLO よりもドイツモデルに学び**、学術研究を専門とする大学や研究機関とこれを商品化する機関に分けて各々の役割を明確にすべきです。ドイツでは、基礎研究部門として大学やマックスプランク研究所があり、応用開発機関としてフラウンホーファー研究所が各州に配置されている仕組みです。

更に民間のシュタインバイス財団が産学連携支援に加わり、中小企業が伸びて世界ブランドを持っています。

日本は、大学が基礎研究と応用(実用)開発研究を共に兼ねる仕組みですがうまくいきません。

## ◎文化発明の保護

発明とは、人による新規な創作を言い図3に示すように、工業発明と文化発明があります。

工業発明は、特許庁に出願して権利にする特許、実用新案、商標やノウハウ等があります。文化発明は、小説・演劇・映画等の文芸発明、歌謡・指揮法等の音楽発明、写真・彫刻・陶芸等の美術発明、論文・文献等の学術発明、武芸・花道・施術等の技芸発明等があります。

例えば、日本の漫画やキャラクターは数兆円以上の市場がありますが、ニセモノや著作権侵害品が多数出回り本物の権利が不当に侵害されている状況です。また文化財には有形文化財と無形文化財がありますが、いずれも文化発明に属すると解釈できます。

これらの文化発明について、これを登録、保護、評価、活用する仕組みは未整備もしくは機能不足の状況にあることは上記キャラクター等からも推測でき、更に AI の進化によってその真贋識別も困難になることも想像に難くありません。世界規模での効果的な対策が期待されます。

## ◎WIB 構想(SIR 理念の更なる進化発展に向けて)

SIR は発足以来一貫して非出願知財を通して公正・共栄社会を実現する理念を持ち推進しています。この理念の更なる進化・発展の仕組みとして世界中の無形資産(情報)を預かり活用する世界無形資産銀行(WIB:World Intangible Bank)構想を立ち上げることにしました。

すなわち、世界の文化、技術、知識、創造性、伝統、技能、ブランド、データ、ノウハウ、社外秘情報などの無形資産情報は、国際社会の基盤です。しかし、これら無形資産には国際的な登録・証明・保護・継承・活用の仕組みが欠如しており、盗用・断絶・価値毀損が世界規模で発生しています。

世界無形資産銀行(WIB)は、無形資産の登録・証明・保護・継承・活用を国際的に保証する唯一のグローバルインフラとして設立され、無形資産を出願によらずに保護し、活用(マネタイズ)し、未来へ継承し、国際社会の公正共栄に寄与することを目的とし、SIR を補完発展させる任意団体として来年発足する計画です(SIR は、公益法人として登録情報等に電子署名する認証機関の役割を持ちます(WIB&SIR))。

図4は、出願によらない知財保護についてまとめたものですが、特許庁外郭団体(INPIT)や世界知的財産機構(WIPO)も同じ仕組みがありました。現在は稼働しておらず廃止されています。また、公証役場にも仕組みはありますが世界で通用しない可能性が高く、WIB は世界に通用する仕組みであると考えられます。

WEB ベースで、社外秘情報や電子ラポノートや文化発明等の巨大ファイルのハッシュ値とその存在時刻及び非改ざん性を検証証明できる情報を送付・保管管理できる仕様を検討しています。なお、図5～6は WIB の意義と期待される課題解決例です。是非ご支援をお願い申し上げます。

協会は公益目的事業である知財調査研究啓発のために市場の声を調査しています。協会ホームページのお問い合わせ(<https://www.ipbrand.org/mail/contact.html>)から常時ご意見等を受け付けます。  
(以上)

図1 無形資産とBS表記

IPI & SIR2

© S.Tamai

図1:貸借対照表(BS)には表記されない無形資産

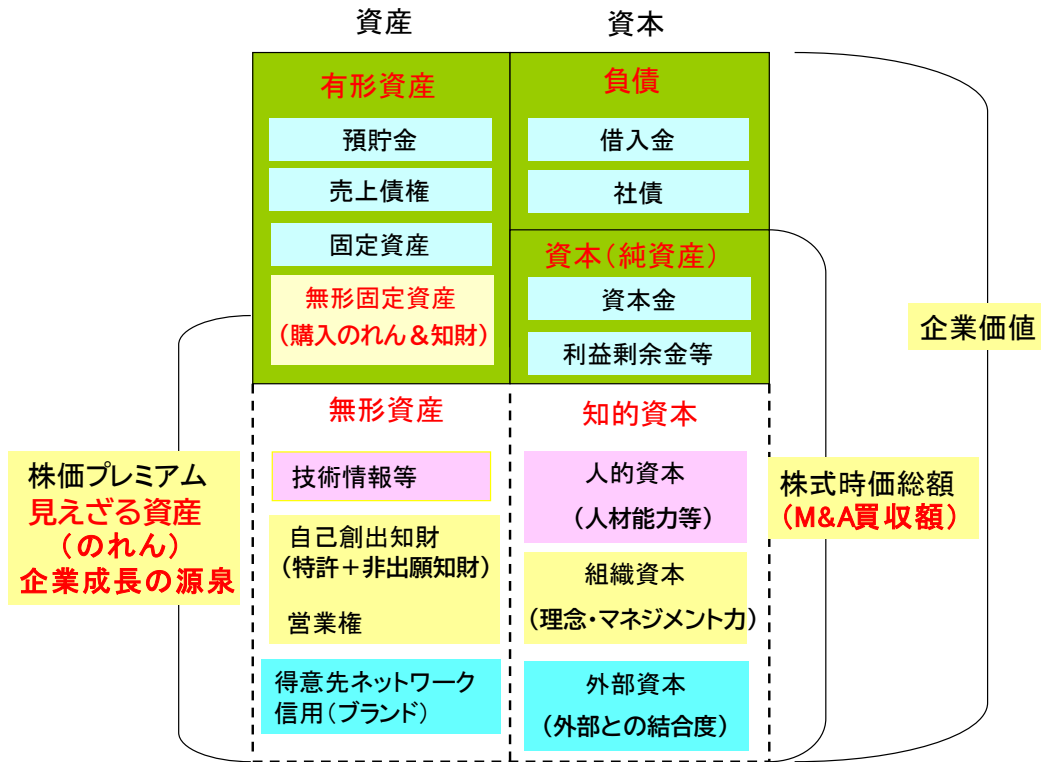
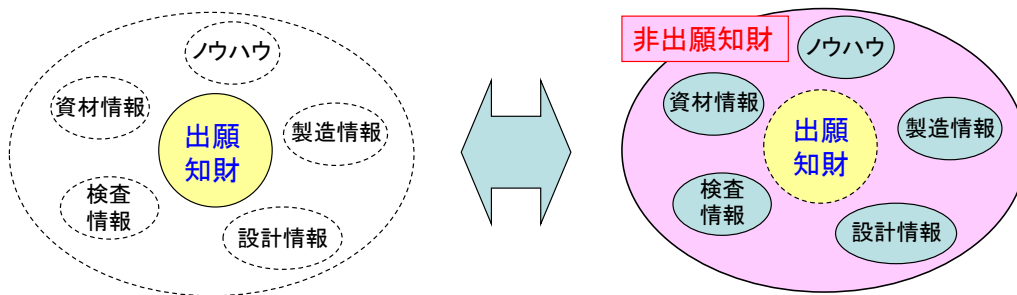


図2 特許だけでは商品作れず

© S.Tamai

図2:非出願知財(守秘知財)は、商品力(品質・性能・コスト)を決定  
~今日まで、特許等の出願知財のみが偏重されてきた~



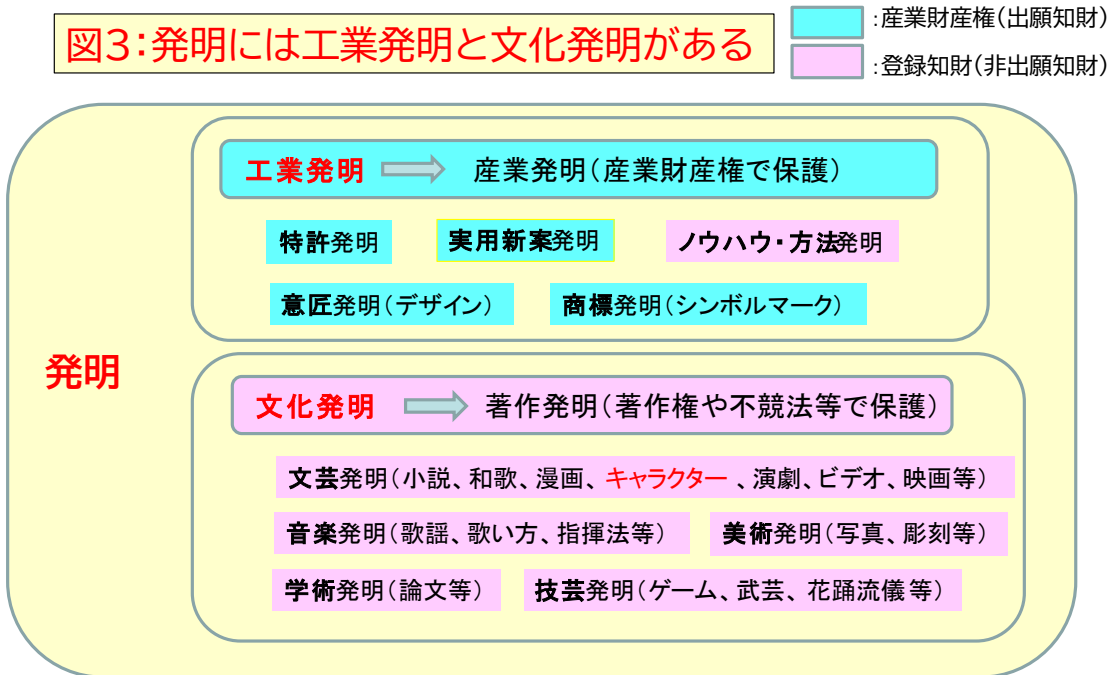
特許などの出願知財情報だけでは  
試作品レベルのものしか作れない

設計製造情報やノウハウなどの  
非出願知財によって、品質・性能・  
コストを満たす競争力商品になる

**IBMの知財戦略**

基本特許はデファクトにして普及させるため無償や低料率で公開し、  
商品化に必要な周辺の非出願知財をライセンスすることで儲ける戦略

図3 発明には2種類ある



協会はこれら文化発明の登録保護活用も推進しています

図4 非出願による知財保護比較

**図4:非出願による知財保護比較** TST:タイムスタンプトークン TSA:タイムスタンプ認証局

	WIB&SIR	WIPO (世界知的所有権機関)	INPIT (工業所有権情報研修館)	公証役場
サービス内容	(無料) ・会員情報をUPすることなくTSTを生成し管理  (有料) ・SIR電子署名 ・SIR会員の全サービス享受	(有料) ・会員情報をUPすることなくTSTを生成し保管  ・1件20スイスフラン(約4千円)	(無料) ・企業TSAによって押印されたTSTの預かりサービス	(有料) ・紙の文書又は電子文書に確定日付け押印 ・これは世界標準RFC3161タイムスタンプではなく法務省システム  ・700円～
国際対応	◎	◎	△	×
サービス期間	2026～27/開始予定	2020/5/27～2022/1/31	2017/3/27～2021/3/31	2020/5/27～2022/1/31
評価	◎	—(廃止)	—(廃止)	×

## 図5 WIB & SIR の意義

IPI & SIR2

© S.Tamai

### 図5: WIB & SIRの意義使命

**WIB は、世界の無形資産(文化・技術・知識)を 登録・認証・証明・保護・活用するための国際的インフラストラクチャー**

#### 国際的課題

- ・ 文化・伝統技能の消失
- ・ 技術・知識の散逸
- ・ 国際的な無形資産の識別基準の欠如
- ・ 改ざん・不正利用の増加
- ・ 長期保存の不統一

#### WIB の国際的役割

- ・ IAC(無形資産コード=IPコード包含)による国際識別
- ・ 国際証明書(SIR&WIB Certificate)による真正性保証
- ・ 100年保存アーカイブの構築
- ・ SIR(ICA)による事業商品の認証とニセモノ等不正撲滅
- ・ WIPO (国際知財制度との整合、利者認証・証明の標準化)
- ・ 国際標準化ISO推進 (IAC・証明書・アーカイブの国際標準化)

#### 各国政府

- ・ **国家文化及び技術政策の基盤、国際的な文化・技術保全の枠組み**

## 図6 WIB & SIR の貢献例

IPI & SIR2

© S.Tamai

### 図6: WIB & SIRが解決するビジネス課題例

#### 課題

##### 企業の課題

- ・ 技術・ノウハウ等社外秘情報の流出
- ・ 国際的な知財証明の不足
- ・ 無形資産の評価が困難

##### 大学・研究機関の課題

- ・ 研究成果の散逸、
- ・ 旧態依然のラボノート
- ・ 著作・発明の証明が不十分
- ・ 技術移転の非効率

##### 銀行・金融機関の課題

- ・ 無形資産の担保評価が困難
- ・ 信頼できる証明データの不足

##### 文化機関/自治体

- ・ 文化資産の保護・継承
- ・ 国際的認知の向上

#### WIBが提供する価値

##### 企業向け

- ・ 社外秘情報等の国際証明
- ・ ライセンス・マネタイズ支援
- ・ 国際的な知財戦略の強化

##### 大学向け

- ・ 研究成果の登録・証明
- ・ 電子ラボノート
- ・ 学術アーカイブの長期保存
- ・ 産学連携の強化

##### 銀行向け

- ・ 無形資産の評価基盤
- ・ 新しい融資モデルの創出

##### 文化機関/自治体

- ・ 地域文化遺産の保全強化
- ・ 認知度強化と活用(マネタイズ)